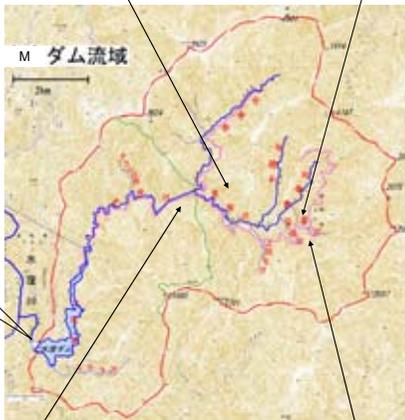


# 地球温暖化の影響を考慮した貯水池堆砂の進行予測に関する研究

河田暢亮1・山元未来2・鹿野久美3・吉野秀樹3・藤田正治4

- 1正会員 工修 前 電源開発 技術開発センター 峯ヶ崎研究所
- 2正会員 前 電源開発 技術開発センター 峯ヶ崎研究所
- 3正会員 電源開発設計コンサルタント 土木事業本部
- 4正会員 工博 京都大学教授 防災研究所

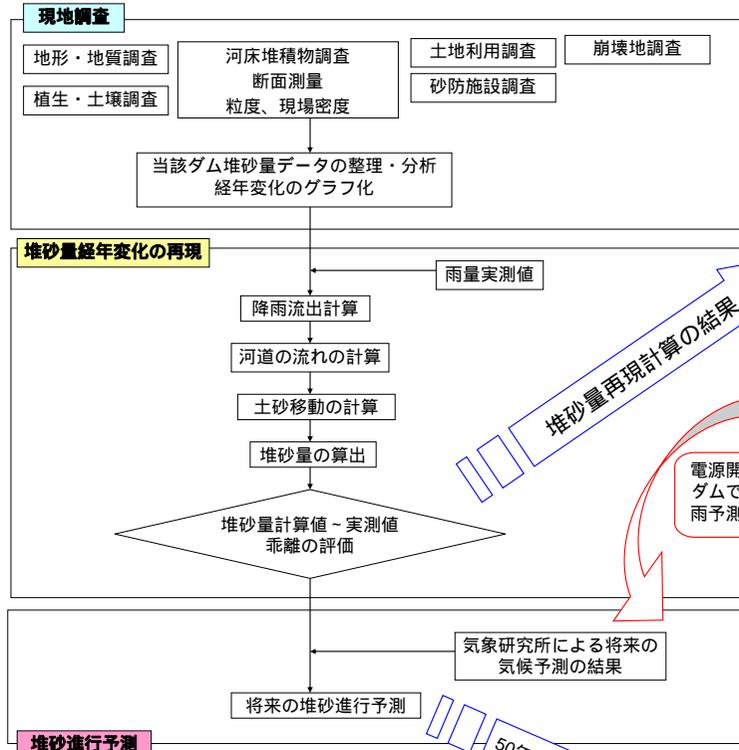


貯水池諸元  
総貯水容量  
30,000千m<sup>3</sup>  
有効貯水容量  
22,800千m<sup>3</sup>

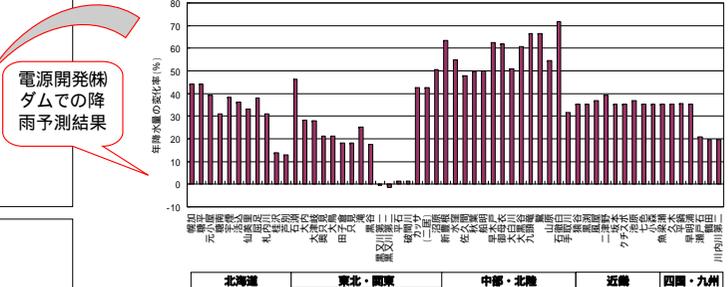
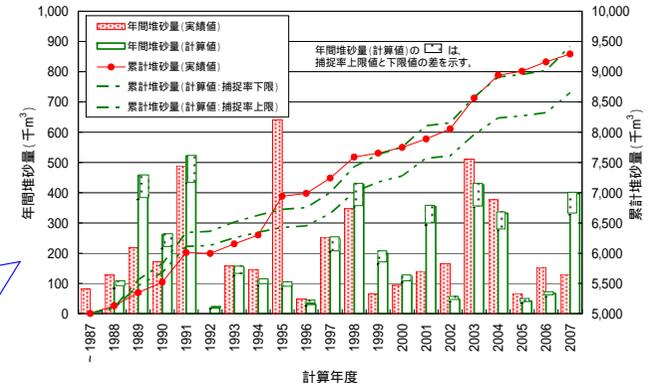


## 研究の背景と目的

電源開発が保有するダムの中には、供用開始後30年以上経過しているものが数多く存在し、一部では事業に影響しかねない堆砂問題が顕在化しつつある。また、地球温暖化の進行とともに大雨の頻度が増えるとの気象庁報告があり、将来、堆砂問題の深刻化が懸念されている。このような状況を踏まえ、電源開発では堆砂の進行予測に関する研究を開始した。本研究の成果を活用し、今後の堆砂処理に関連する投資の効率化を図るとともに、効果的な堆砂対策の実現を目指す。



堆砂量再現計算の結果



50年後までの堆砂進行予測結果

